

日本学術会議公開学術講演会 徳島大学大学院医歯薬学研究部公開シンポジウム



2017年

日時

11月18日 土 14:00-16:30

会場

藤井節郎記念ホール
(藤井節郎記念医科学センター)

情報交換会 Sora
徳島大学病院西病棟 11階

主催／日本学術会議中国四国地区会議
徳島大学大学院医歯薬学研究部
共催／徳島大学、徳島大学歯学部
後援／徳島県、徳島市、徳島新聞社、NHK徳島放送局、
四国放送株式会社、NPO法人徳島医学研究・教育
支援機構、徳島県歯科医師会、徳島市歯科医師会、
四国歯学会、徳島県地域包括ケアシステム学会

14:00

開会の挨拶

挨拶

挨拶

苛原 稔医歯薬学研究部長

神谷 研二日本学術会議中国四国地区代表幹事

徳島大学長 (予定)

14:10

基調講演

産官学民による人生100年時代のまちづくり

座長 曾根 三郎 (日本学術会議連携会員, 徳島大学名誉教授)

講師 秋山 弘子 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

日本は長寿社会のフロントランナー。人生100年といわれる時代が到来した。しかし、私たちが住んでいる「まち」や社会システムは人生50年時代につくられたままで、長寿社会のニーズにはとても対応できない。また、私たち自身も人生50年時代の生き方をしている。100年の人生を健康でいきいきと、弱っても安心して快適に暮らすことのできるまちづくりには様々な技術と社会システムのイノベーションが必要である。千葉県柏市で様々な分野の関与者が協働して既存のまちをつくりかえているアクションリサーチ「長寿社会のまちづくり」、生活者（ユーザー）と共に大学、企業、行政が長寿社会に必要なモノ、サービス、社会システムを共創するオープンイノベーションのプラットフォーム「鎌倉リビングラボ」の事例などを紹介しつつ、社会課題を解決して未来社会の構築に資する研究方法論、学術政策、大学の担う役割を検討する。



[講師プロフィール]

イリノイ大学でPh.D (心理学) 取得, 米国の国立老化研究機構 (National Institute on Aging) フェロー, ミシガン大学社会科学総合研究所研究教授, 東京大学大学院人文社会系研究科教授 (社会心理学), 日本学術会議副会長などを歴任。専門=ジェロントロジー (老年学)。高齢者の心身の健康や経済, 人間関係の加齢に伴う変化を25年にわたる全国高齢者調査で追跡研究。近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりや産官学民協働のリビングラボにも取り組む。超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求。

超高齢社会における地方大学の役割と学術形成

座長 市川 哲雄 (日本学術会議会員, 徳島大学大学院医歯薬学研究所 (歯学系) 教授)

1) 超高齢社会の課題解決に向けて大学ができること

講師 佐々木 卓也 徳島大学 理事 (研究担当)

総人口に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)が21%を超えた社会を「超高齢社会」と呼ぶが、徳島県は現在高齢化率31.0%(全国3位)と、まさに日本を代表する「超高齢社会」となり、それに伴う種々の問題に直面している。徳島大学は国立大学改革に向けてうち出された国の新方針「三つの枠組み」で「地域と特色分野の教育研究」を選択したことから、この徳島県が抱える超高齢社会の課題を解決するために、徳島大学の特色であるライフサイエンス研究の成果を地域社会に還元するとともに、世界に発信する責務を負っていると言える。現在、医学・歯学・薬学・栄養学・保健学の研究室が集約する蔵本キャンパスでは、老化に伴う種々の疾患の克服を目指して各領域の研究者の連携した研究が、常三島キャンパスの理工学部では医学部・大学病院との医工連携の異分野融合研究が進んでおり、大学全体でこれらの取り組みを支援する仕組みも構築している。本シンポジウムでは、超高齢社会の課題解決に向けた徳島大学の研究の取り組みを紹介したい。



[講師プロフィール]

1985年 神戸大学医学部医学科卒業。その後神戸大学医学部附属病院医員(研修医)、兵庫県立こども病院研修医、国家公務員等共済組合連合会共済病院医師を経験した後、基礎研究に移り神戸大学医学部助手、大阪大学医学部助手、助教授を経て、2000年徳島大学医学部教授、組織替えて医歯薬学研究所生化学分野教授、2017年国立大学法人徳島大学理事(研究担当, 副学長)

2) 新しい大学のかたち 徳島大学フューチャーセンター A.BA

講師 吉田 敦也 徳島大学地域創生センター長

今、日本の社会に求められているのは、人の生き方、働き方、暮らし方にインパクトを与え、地方の持続と成長、ならびに、日本の国際競争力を牽引する新しい価値の発見/創造である。そのことを加速する新しい考え方での教育・研究・地域貢献が待望されており、とりわけ地方の国立大学には大きな期待が寄せられている。なぜなら、地域に埋もれた資源や資産は、新しい結合やこれまでにない切り口、捉え方により、宝の山に急変し、新しい研究、産業、文化等の幅広いスタートアップを誘発させるポテンシャルを持つ。一方で、日本の国立大学では、既存の知識を伝授し、その高度化を図るに有利な方向で整備が続いており、新しい価値の創造やそれをリードするイノベーション人材の養成はまだまだこれからの状況にある。特に「場」の力を利用して知識創造する大学機能は未だに少ない。そうした社会イノベーションをテーマに教育・研究・地域貢献を刷新し、従来の産学連携や大学間連携とは異なる「エコシステム」や「リビングラボ」を構築/駆動するのがフューチャーセンターである。本講演では、こうした観点から、国立大学では初めて設置された新しい大学機能「徳島大学フューチャーセンター A.BA」における地方創生の実践事例について紹介する。



[講師プロフィール]

1976年大阪大学人間科学部卒業。大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学。学術博士。2001年より徳島大学教授。2007年より徳島大学地域創生センター長、現在に至る。専門はヒューマンインタフェースデザイン。主として地域創生に寄与するコミュニティテクノロジーに関する教育/研究と実践に取り組む。2007年ユビキタス双六 通路の開発と実践により第7回インターネット活用教育実践コンクールにて文部科学大臣賞、2010年 徳島県の地域ICT化(特に高齢者や一般市民の利活用支援)に寄与したことからe-とくしま表彰(徳島県知事)、2011年 四国総合通信局長表彰(総務省四国総合通信局)を受賞。2015年9月には国立大学初の徳島大学フューチャーセンター[A.BA](第29回日経ニューオフィス賞 四国ニューオフィス推進賞受賞)の設置に大きな役割を果たし、地方におけるグローバル人材育成とイノベーションの「場」づくりを牽引している。

3) 徳島県地域包括ケアシステム学会の深化・進展

講師 白山 靖彦 徳島大学大学院医歯薬学研究部教授(歯学系)

徳島県の2015年における高齢化率は31.0%であり、全国平均26.6%よりも4.3ポイント高い(全国8番目)。今後、高齢化率は2040年までに9.3ポイント上昇し、およそ10人に4人が高齢者になると見込まれている。75歳以上人口の占める比率も全国平均の48.9%に対し、本県では54.0%と全国平均より高くなっており、75歳以上人口の伸び率が全国平均を大きく上回っている。こういった状況を踏まえ、地域包括ケアシステム(以下、「包括ケア」)の均霑化を2020年に達成すると県行政は宣言している。また、高度先進医療の進展により、疾病の治療・改善は果たせても、退院後に寝たきりや認知症になるなど、健康寿命の延伸や、介護給付の削減に必ずしも貢献していないと、指摘されており、特定機能病院のあり方が今、問われている。そこで、超急性期の一端を担う徳島大学・徳島大学病院では、県民が少しでも長く地域で住み続けられるよう、包括ケアの支え手として、徳島県地域包括ケアシステム学会(ToCCS)を本年3月に全国2例目として設立した。その目的は、医療・福祉・行政など、専門職種間によるボトムアップ方式の包括ケアの深化・進展である。すなわち、「人・地域のつながり」に主軸を置いた成功事例の共有であり、包括ケアのポータル化である。本年8月には、第1回の学術大会を開催し、県内各所で取組まれている具体的な成功事例を共有、そのプロセスおよび結果を本会でお示しする。今後は、個人会員や協力団体・企業の増大を図りつつ、まさしく「All Tokushima」で2025・2040年問題を迎え撃ちたい。



[講師プロフィール]

三重県福祉行政で勤務する傍ら、川崎医療福祉大学大学院で医療福祉学博士(Ph.D)を取得。その後、静岡英和学院大学人間社会福祉学部(准教授)に勤務後、2011年徳島大学大学院医歯薬学研究部地域医療福祉学分野教授、現在、徳島大学歯学部副学部長/徳島大学病院長補佐 併任。専門は医療福祉学であり、特に高次脳機能障害(cognitive dysfunction)に関する研究に従事。現在では徳島県地域包括ケア推進会議委員や学会(ToCCS)の代表幹事を務め、県・市町村行政とも連携し、徳島県版包括ケアのあり方を探求。

16:30 閉会の辞

河野 文昭歯学部長, 医歯薬学副研究部長

[Memo]

担当 徳島大学大学院医歯薬学研究部

口腔顎顔面補綴学分野 市川 哲雄

〒770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15

TEL 088-633-7347/FAX 088-633-7461

E-mail: hotetsu1@tokushima-u.ac.jp